

<報道発表資料>

令和7年10月2日

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

黒書院の秋 ～〈黒書院〉四の間～

二条城障壁画 展示収蔵館 原画公開 令和7年度秋期 シリーズ転調の花鳥

この度、秋期原画公開「黒書院の秋 ～〈黒書院〉四の間～」の開催について詳細が決まりました。今回は、軽やかな扇と静謐な菊が描かれた〈黒書院〉四の間の障壁画《秋草扇面散図》と《菊図》を公開します。



〈黒書院〉四の間障壁画《秋草扇面散図》東面（部分）

重要文化財（絵画）二条城二の丸御殿障壁画の大半は、徳川家三代将軍、家光（1604-51）の時代、寛永^{かんえい}3年（1626）の大規模改修に伴い、狩野派^{かのう}の絵師たちによって描かれました。元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示収蔵館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開します。

今年度は、「シリーズ 転調の花鳥」として、二の丸御殿の各棟の北東にあたる部屋に描かれた障壁画に焦点を当てて紹介します。各棟の北東の部屋の障壁画は、他の部屋と共通しつつも、異なる特徴を持つ花鳥図が描かれています。

【事業概要】

- 会期 令和7年10月9日(木)～12月7日(日)
- 入館時間 午前9時～午後4時30分(閉館は午後4時45分)※二条城の入城受付は、午後4時まで
- 場所 元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館(〒604-8301 京都市中京区二条城町541番地)
アクセス：地下鉄東西線「二条城前駅」又は JR 京都駅から市バス 9、50 号系統「二条城前」下車すぐ
- 入館料 100円(未就学児無料)※別途入城料が必要。※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方(敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方)、各種障害者手帳等をお持ちの方の入館料は、不要です。
- 公開作品 〈黒書院〉四の間障壁画《秋草扇面散図(あきくさせんめんちらしず)》、《菊図(きくず)》(障壁画面数：30面)
- 主催 京都市文化市民局元離宮二条城事務所



〈黒書院〉四の間障壁画《秋草扇面散図》東面(部分)



〈黒書院〉四の間障壁画《菊図》西面(部分)

<解説と見所について>

〈黒書院〉は、江戸時代前半までは「小広間」と呼ばれていました。〈大広間〉が、将軍と大名や異国の使者等との対面所であったのに対し、「小広間(黒書院)」は、主に高位の公家との対面に使われました。

この〈黒書院〉の障壁画には、三つの特徴があります。一つ目は、切箔や砂子、盛り上げ胡粉等、豪華な絵画技法を使うこと、二つ目は、長押の上と下で画題が変わること、三つ目は、一の間・二の間は春、三の間は秋から冬、今回ご紹介する四の間は秋というように、季節の景物を描くことです。これらの特徴は、〈黒書院〉では、対面相手を特別な相手として迎え入れ、親密な関係を構築、維持することが目指されたという、場の機能に由来すると考

えられます。

今回展示する〈黒書院〉四の間の長押上の《秋草扇面散図》は、薄と扇面を描きます。全部で46面ある扇面は、多彩な技法を使って花鳥草木、人物風景等を描き、同じ図様は一つもなく、まるで小さな美術館のようです。いくつもの扇面が風に吹かれ、重なったり、離れたりしながら、薄の間を軽やかに舞っており、弧線がリズムカルに反復する構図となっています。

長押下の《菊図》は、菊と流水、垣根を描きます。菊と流水は、菊花の露に不老長寿の効能があるとする、いわゆる「菊水伝説」を想起させる図様です。構図の上では、菊の垂直性と流水の水平性、さらに、この二つの要素をあわせ持つ竹垣を組み合わせることで、水平・垂直の方向性を強め、可憐な菊花を引き立たせています。

これら〈黒書院〉の障壁画の制作を指揮したのは、狩野尚信（1607-50）です。寛永3年における二条城障壁画制作の総指揮をとった狩野探幽（1602-74）の弟で、障壁画が完成した時点で、弱冠20歳でした。若き日の尚信が、繊細で鋭い感性をみせる、〈黒書院〉四の間の障壁画を、この機会にぜひご覧ください。

<お問合せ先>

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

電話：075-841-0096